

「マイコプラズマ肺炎」が 8年ぶりに大流行しています



1. マイコプラズマ肺炎とはどのような病気ですか？

潜伏期間は2～3週間で、飛沫感染(せきやくしゃみなど)や接触感染(病原体のついた手や鼻をさわるなど)でひろがります。
約80%が14歳以下です。

2. どのような症状ですか？

発熱、倦怠感、のどの痛みではじまり、数週間(3～4週)持続する頑固な咳が特徴です。

3. マイコプラズマに感染すると肺炎になりやすいのですか？

ほとんどの場合、風邪と似たような症状が1週間程度続き改善傾向となります。感染が進むと約10%がマイコプラズマ肺炎を引き起こします。

4. 治療法は？

治療の第一選択はマクロライド系の抗生剤です。代表的な物としてはアジスロマイシン(ジスロマック)、クラリスロマイシン(クラリス、クラリシットなど)、エリスロマイシン(エリスロシンなど)です。

5. 耐性菌とは？

従来の抗生剤が効かないマイコプラズマが増えています。48～72時間以内に解熱しないときには耐性菌と判断し、トスフロキサシン(オゼックス)やテトラサイクリン系(ミノマイシンなど)を投与します。

6. 予防法は？

手洗い・うがい・マスクの直用などです。特に咳エチケットを心がけましょう。